

同窓会ニュース

第3号

平成元年2月17日
職業訓練大学校同窓会
〒229 神奈川県相模原市相原1960

会長に就任して

谷 卓 郎 (建築1期)

'87~'90期の同窓会活動がスタートして、最早その任期の半ばが近くになって来ました。私個人としては最も不似合いな役を仰せ付かり、最も不得意な挨拶文の為のペンを取らねばならないことに気を重くしながらも、一方では訓大卒業生の皆さんに奉仕する立場を与えて戴き、一卒業生として光栄に思っております。

まず、同窓会の現況から触れますと、前会長の牛尾清治さんが「同窓会誌(20周年記念号)」の中で“名簿の有償化及び会費の検討を含め対策をとらなければなりません”と問題提起されているように、同窓会本部に置きましたは、現在基本的な事項を含めた幾つかの課題を抱えています。バトンを受けた私達新役員は、その解決の為、理事に職業訓練施設、行政、民間企業等に勤務する卒業生を迎えてより広く意見を収集するとともに、学内在職卒業生の会を重ねて問題点の整理と方向付けを検討しております。現段階では会の名称変更、会員構成、財政基盤の整備、会議の開催方法、組織強化等の問題点を中心に議論しています。また、平行して、体制作りの核となる名簿のデータベース化を若手理事の努力と学内在職卒業生の協力を

得て進めるなど、地道な活動も行なっております。

ところで、ここで同窓会の本来の目的を考える為に手近にある辞書をめくってみますと、『同窓』は“同じ学校や同じ師について学ぶこと、またその人”、『同窓会』は“同窓の人々の相互親睦、母校との連絡などを目的として組織される団体、またその会合”などと私達が理解している表現で書かれていますが、その言葉を構成する二つの文字については、『同』は“多くの人を集めることが原義で、ひいて一つ所に集まった多くの人々の意から、なかま・ともに・ひとしいの意となった”とされ、『窓』はよく通じるの意の語源(疏)からきていて、穴室の内外を疎通する穴の意”と記されています。

素人の無謀な解釈ではありますが、『同窓会』という言葉の意味を“同じ窓で学んだものの集まる場”に加え、精神としては“卒業科、年令・卒業年度、社会的立場、思想、興味などが異なるそれぞれの殻を持った者同士が集い合い、それぞれの殻に穴を明けて意思疎通を計る場”であるとも読みたい所です。

日本全国いや世界に羽ばたいている我が訓大の卒業生が、同窓会という場で自己を振り返り、友人を得ることが出来ればと願っている次第です。

「訓大の学科再編について」



長期課程部長 野田 茂

1. はじめに

昭和36年に中央職業訓練所として発足した訓大も今年の3月で満28才になります。その間に開校時の科と専攻が独立科となり、

金属材料科の廃科や福祉工学科、情報工学科の新設等の変遷がありました。また、先年の「職業訓練法」から「職業能力開発促進法」に法律改正がされたことをふまえて、日本の職業訓練も産業構造の変化に対応する弾力的な内容への転換がなされつつあります。

訓大もそれらの社会的要求に応えるため、数年前から学内に改革準備委員会を設置し、労働省や事業団本部とも検討を重ねました。その結果、昨年4月に省令を改正して従来の11専門学科から8専門学科への再編と、大学院修士相当の研究課程工学研究科の新設が決定しました。研究課程は昨年4月、新編成の専門学科は本年4月の発足となりました。以下、再編に至る経緯を述べて卒業生諸氏の御理解と今後の御支援をお願いします。

2. 産業界の構造変化と職業訓練

最近はME化を中心とした技術革新の進展が著しく、鉄鋼、造船等を中心とした重厚な製造業中心の産業にも二次加工を導入する等の努力がなされています。すなわち、第二次産業中心の産業構造から第三次産業への拡大であり、流通部門をも含めた労働集約型から知識集約型への強化発展と転換の方向に進んでいます。それに従って技能者の質的な改革も必要となり、従来の狭い職能領域の中での熟練度の追及だけでなく、幅広い知識と技能を兼ね備えた上で、新技術の開発のための支援とそれを現場に定着させるためのより高度な応用力をもったテクニシャンの確保が重要な課題となって来ました。

事業団でもこのような社会的ニーズに適合するようにするため、今迄の単なる養成訓練にとられない方

向に努力を重ねています。その1は地域産業を対象とした向上訓練を中心とする技能開発センターへの転換であり、その2はテクニシャン養成のための職業訓練短期大学の設置等であります。とくに短大では現行の科の見直しをするだけでなく担当教員の資質の向上に対しても積極的に取り組んでいます。

産業界の現状と教育訓練の対応については文部系の大学でも同様な傾向があります。戦前から著名な冶金関係の学科が新しい材料関連の学科に編成されたのを始めとし、最近の新設される大学、学部、学科、講座等ではMEと関係する内容のものが多く目につきます。これらの外にも従来の設置学科の統廃合も進められているようで、社会的なニーズに整合するための努力が進められているようです。

3. 訓大卒業生としての指導員像

文部系の学校教育が社会人としての個人を対象としているのに対し、訓大は社会の産業人の立場から職業訓練指導員を養成する目的をもっています。そのような職業訓練の体系の中で実践的技術者としての内容を保ちながら、現在の高度な産業界のニーズに対応するためには、新しい中味を作らねばなりません。さらに職訓短大の教員としても満足し得る卒業生にする必要があります。

色々な見方があると思いますが、少なくとも次のような事項について適応する能力を持った卒業生が生れて欲しいと思われます。

- (1) 従来の狭い職種をこえて幅広い知識、技能をもつこと。
- (2) 変化する技術技能に対して、科学的、工学的に対応し得る能力や、ME技術に即応できる能力をもつこと。
- (3) より高度な専門知識と技能に加え、技術の変化に弾力的に対応できる応用力と研究開発能力をもつこと。
- (4) 向上訓練等に見られる新知識、技能の追加、補充の能力をもつこと。
- (5) 職訓短大を始めとする職業訓練関係の指導員と関連して、上記の内容をとともに推進させる能力をもつこと。

4. 学科再編への検討

上記の指導員像は、産業界の変革と今後の需要をふまえ、職業訓練における養成訓練、向上訓練、短大における専門課程と、現職の指導員の資質の向までを考えた内容であり、実現には訓大自らが大きな変化を要求される内容となっています。定められた期間と時間の中で、しかも定員という枠のある訓大教員に課せられる問題としては大変に大きいものがあります。これらについては前述した訓大の改革委員会が各科で検討を進めながら逐次解決するための努力を重ねました。とくに実行上の制約の中で上記を満足できるような授業内容を得られるかの問題で数多くの検討が各科でなされました。その中のいくつかについて、検討の内容と結論を附記します。

(1)幅広い知識、技能を持ち、職能領域を拡大することについては、定められた時間が前提となっているために難しい問題ですが、基礎的な内容を充実させることで幅広い領域拡大を計ることとしました。従来に応用事例の集積による習熟度の向上についても実技面でのME利用による高度化技術の導入を計り、短時間で効率化を計ることで可能との結論です。

(2)変化する技術技能に対応させるためには、従来の経験的手法の反復で得られる習熟等を工学的に追及して短時間で説明できる教授法に重点を置くことで解決できます。現実の社会でもCAD/CAMの導入等で実行されている所で、新しい訓練基準では全科に情報処理と情報処理基本作業を設定するとともに、従来は実習のみの実技に実験を設定することとしました。

(3)より高度な専門知識と技能の習得、技術変化への弾力的対応と研究開発能力については、設置されつつある各地の職訓短大の教員に大きな意義があります。これについては訓大卒業後を入学資格とする修士相当の研究課程を新設することが決定しました。卒業研究等でのまとめ方を身につけるだけでなく、自ら研究開発することで高度な専門知識と技能の習得をし、それらの過程で対応する能力を修めるような指導を得られるように計画したということになります。

(4)向上訓練等の対応としての新知識や技術の追加補充に関しては、基礎的分野の充実と先端技術の導入による効率化で得られた体系的な理解力と応用力に加え、科学的、技術的な手法による解明のしかたで涵養される実力で対応します。もちろん地域での特殊性と未来への可能性を考慮しなければなりません。上記の思想で一つ一つを消化すれば、後は個人としての指導員の能力で発展させることが可能になると思います。

(5)現職の指導員とともに資質の向上を計ることについては、再訓練部で実施して来た研修の場も有利な環境といえます。職業訓練の実行の場である各施設で実施している現状や種々の問題点を、担当する指導員と一体になって解決するようにしたいと思っています。この面では、国際協力部に対しても同様に、外国の指導員とも情報の交換をする場が与えられていると考えても良いと思います。

5. 終りに

四半世紀余の中にはいくつかの変革もありましたが、最近の技術革新を契機とした今回の訓大再編は、今迄にない大きな変化でありました。今になって大変なことをしようとしていると思っているのが実感でもあります。しかしながら、社会の進展は少しずつのようでも結果的には大きなものになっていたと、過去を反省しているのも現実です。「職業訓練法」という親しかった法律を改正したのもそれ故の対応です。

今回の省令改正では、このような努力にマッチするよう、各科卒業生の指導員免許取得にかかわる幅も広くなりました。教授内容の充実とともに皆さんにも喜んで頂けると思っています。

今回の再編では旧制度の教育訓練と新制度のそれとが、向う数年間続くこととなります。今年の4月入学する学生から新制度の適用になるからです。その意味では今迄の授業を実施しながら、新しい編成の準備もしなければならない教員が一番大変な仕事をしなければなりません。

既に卒業して実務についている社会人の先輩として、新旧を問わず巣立つ卒業生を迎えるとともに、母校で宮々と努めている先生方のために、格段の支援と協力を賜りますようお願いする次第です。

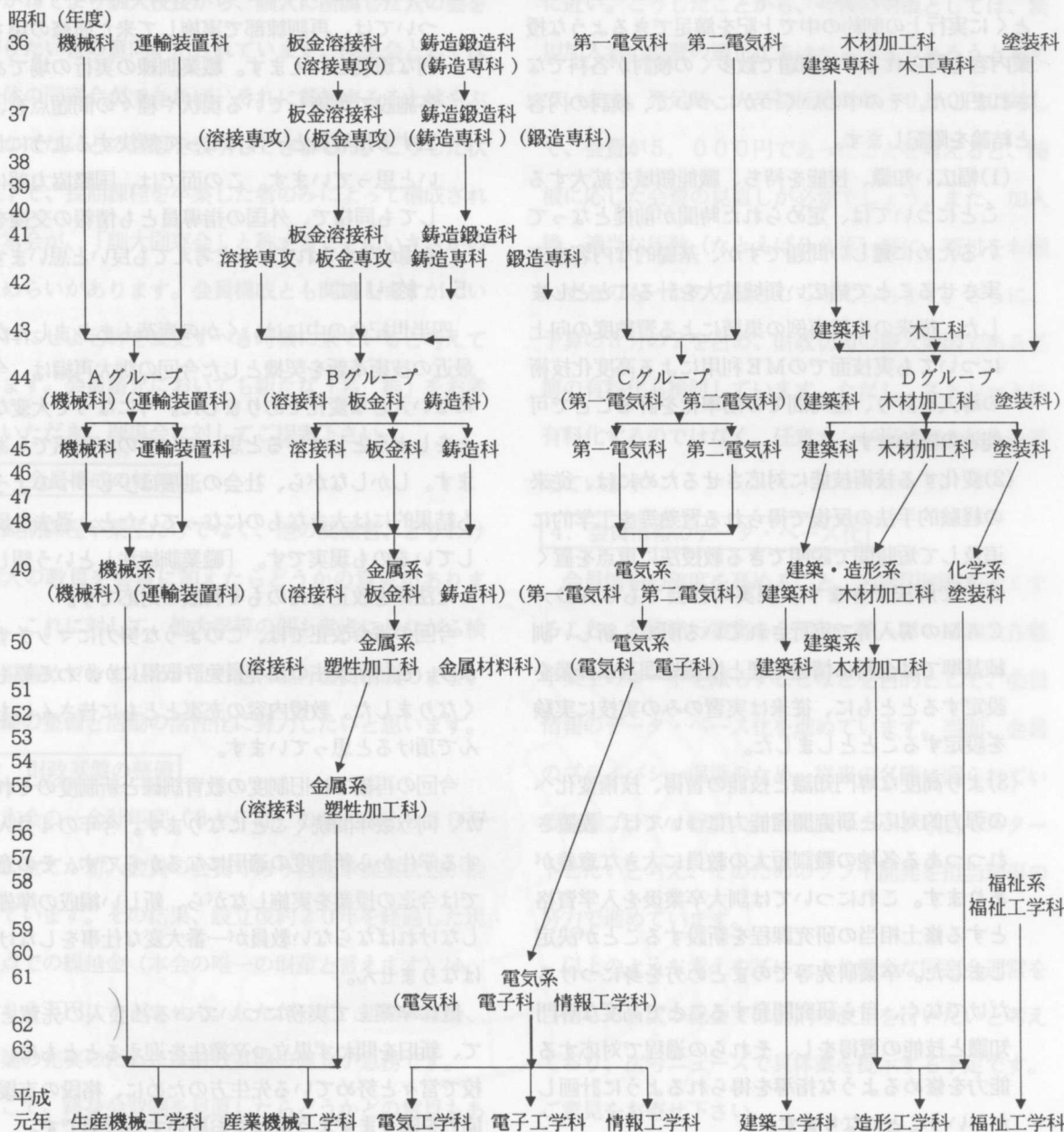


学生募集の移り変わり



訓大長期課程が8工学科に再編成され、平成元年（1989）四月より新入生を迎えることになりました。過去においても新学科の創設、名称変更などがおこなわれています。今回のニュースでは、訓大の歴史を振り返る意味で、学生募集時における科名の移り変わりを取り上げ、表にまとめてみました。創立当初の資料が少なく、正確さに欠ける点があるかと思われまます。お気づきの点がありましたら、同窓会本部までご連絡ください。

職業訓練大学校（長期課程） 学生募集科名の変遷 （ ）内は2年進級時に専攻



| 雑 感 |

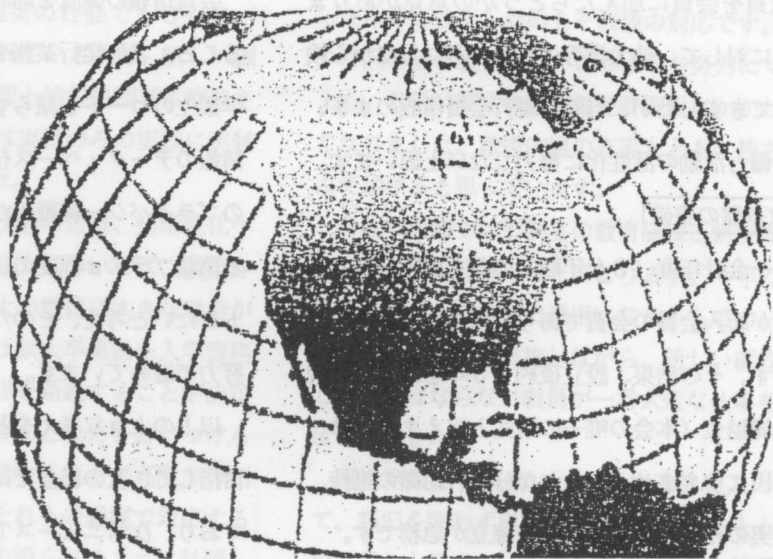
学生部長 村瀬 勉

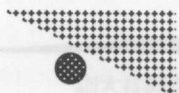
訓大は、今年四月の入学者から8科編成で、その科名は、いずれも工学科がつく産業機械、生産機械、電気、電子、情報、建築、造形、福祉となります。最近の科学、技術革新に対応できるようにとの願いがこめられていますが、名前を変えてもという意見もあります。「名は体を表す」、また「名は実の資」ともいわれます。それぞれ「名と実とが相伴っている」ことを、「大事なものは名ではなく実質である」ということを意味します。もともとこの類の言葉は、ものの多面性を物語っているのであって、どちらが正しいということではないものでしょう。前者は改革への出発の願いであり、後者は実行する際の心構えであると思います。同窓生の皆さんの中には自分の卒業した科名がなくなり、淋しい気持ちを持たれる方もありますが、発展的に考えて下さい。

今年、訓大は28歳になります。バイタリティに富

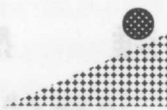
んだ世代です。このバイタリティは、生命力、生存能力、活力などの意味ですが、注目したいのは「持続力」の意味もあるということです。単に生命を持ちこたえるだけではなく、環境に適応して成長、発展してゆく能力を意味しています。

高度経済成長下にあって、今のところ売手市場にある大学は、見かけのうえでは繁栄しているかに見えます。しかし、3年後のピークから減少を始める18歳人口（3年後には205万人、10年後には153万人）、高齢化、国際化、情報化による社会の構造的変化の中に私たちは既に入り込んでいます。したがって、訓大の30歳代は好むと好まざるとにかかわらず大きな試練を受けるでしょう。このとき私たちの真価が問われます。同窓生の皆さん、どうか訓大の適応力ある成長、発展のためにますますご協力くださるようお願いいたします。





同窓会の今後の方向について



今後の方向に関わる事項のうち、下記の四点にしぼって理事会の考えを述べたいと思います。

1. 名称変更

かねてより訓大校長から、訓大に所属した人の会を作りたい旨の意向が示されています。同窓会としては全体の同窓会ができれば、それに参加することはやぶさかでないとの意思を表明してきました。こうした状況下で、長期課程を卒業した者のみによって構成された本会が、「訓大同窓会」と称することにいささかのためらいがあります。会員構成とも関連しますが、いずれにせよ名称を変更すべき時機に来ていると考えています。会員諸兄においても新たな「名称」をお考えいただき、理事会に対してご提案下さい。

2. 会員構成の維持

長期課程卒業生だけでなく、他の関係者、とりわけ訓大の教員を会員に加えたらどうかの意見があります。これに対して、他大学等の例も参考にしながら検討を進めてきましたが、当面、現行会員構成のまま、組織の整備と活動の活性化に努力したいと思います。

3. 財政基盤の整備

本会の一会計年度(3ケ年間)の収入は約300万円、全てが新入会員の会費であり自転車操業状態が続いています。その結果、設立後約20年を経過した現時点での繰越金(本会の唯一の財産と言えます)は、約90万円にすぎません。したがって、組織の維持、事業の充実のためには財政基盤の確立が急務です。そこで、終身会費制を見直したらどうかとの意見もあ

副会長 久下 靖征 (塗装・二期)

りますが、会費納入に係る事務処理の煩雑さや未納入者への処置等難しい点が多々あります。一方、訓大在職卒業生の努力で、新規会員の会費納入率は100%に近い。こうしたことから、今後の対策としては、新規加入者の会費の適正化をはかるべきであろうと考えています。発足時、大卒初任給32,000円に対して、会費が5,000円であったことを考えると、時機に応じた会費の見直しが必要でしょう。また、加入後、適当な年数(たとえば20年)毎に、寄付をお願いするのも一つの方法として考えられます。さらに、予算の3分の2を占め、財政切迫の最大要因である名簿の有料化も検討しています。ただし、ストレートに有料化するのではなく、任意カンパ形式での納入を考えています

4. 会員情報のデータ・ベース化

会員情報の確度を高めること、名簿印刷費を安くすること、名簿発行業務を全面的に担っている訓大在職卒業生のロードを減らすことなどを目的として、会員情報のデータ・ベース化を進めています。当面、会員のプライバシー保護のため、従来の名簿に盛られている情報プラスα程度の、最低限のデータ項目でスタートしたいと考え、そのためのソフト開発を担当理事の努力で進めています。

以上のような考えを基に、より健全な同窓会運営を目指して、次の総会では会則の改正を行いたいと考えており、次号ニュースで具体案を提示する予定です。ご意見をお寄せ下さい。

お知らせ

◆◆◆◆ 同窓会連絡 ◆◆◆◆

☆ 同窓会の名称について

久下副会長の「同窓会の今後の方向について」で記したように、同窓会の名称変更について検討を重ねています。名称変更に関する御意見、および、新たな名称の御提案を同窓会本部におよせ下さい。

昭和62年3月

機械科	池辺 洋 教授
電子科	土屋久一 教授
塗装科	吉田豊彦 教授
建築科	矢野昭吾 助教授

☆ 名簿の整備と会費納入のお願い

各科代表者に御協力をいただき、科ごとに名簿の整備を行っておりますが、会員の増加に伴い正確な整備が難しくなっています。今後転勤、転職、結婚等に伴う住所、勤務先の変更がありましたら同窓会宛に御一報ください。

昭和63年3月

基礎学科	船田幸一 教授
基礎学科	吉田秀彦 教授
運輸装置科	菊池英一 教授
溶接科	宮本 栄 教授
建築科	中田 久 教授

また、会費未納（終身会費8000円）の方は、下記の口座番号、加入者名に郵便局より振替用紙をご利用の上、至急会費の払い込みをお願いいたします。

平成元年3月

口座番号	東京45350
加入者名	職業訓練大学校同窓会

機械科	篠崎 襄 教授
塑性加工科	村井香一 教授
木材加工科	小西千代治 教授
塑性加工科	樋口正司 助教授

☆ 訓大職員の退職について

訓大および訓大卒業生に対して、ひとかたならぬ御尽力を下さった次の先生方が、前回同窓会ニュース第2号の発行以後退職されました。また、今春3月末退職予定の先生方も合せて御連絡いたします。

「過去の無情な解散ではありませんが、「同窓会」という言葉の意味を「同じ窓で学んだものだから」として、個人で生活し、各自がそれぞれの道を歩む中で、同窓会という場で自己を振り返り、友人を懐念することが出来ればと願っている次第です。

☆ 役員を紹介します

同窓会運営について、学外で御活躍の同窓生を理事に迎え、学外理事として御協力いただく事になりました。下記の方々に学外理事をお引受けいただいています。

- 会 長 谷 卓郎
- 副会長 久下靖征 梅津二郎
- 理 事 片岡義博 黒柳秋男
- 菅野恒雄 増田賢二
- 和田正毅 森 周蔵
- 渡辺信公 前川秀幸
- 武藤一夫 森 茂樹

学外理事

- 尾身嘉一（建築・1）大栄工業（株）
- 野中史郎（電気・3）海外職業訓練協会
- 富崎元成（機械・7）富崎特許事務所

久保田修（機械・8）千葉労働基準監督署
安部 武（運輸・9）雇用促進事業団本部

各科代表

- 機械科 広田平一
- 運輸装置科 永田雅美
- 金属材料科 更科利夫
- 塑性加工科 大谷 昇
- 溶接科 西田隆法
- 電気科 中野弘伸
- 電子科 平松健二
- 情報工学科 八田昌之
- 建築科 渡辺光良
- 木材加工科 吉松孝夫
- 塗装科 牛尼清治
- 福祉工学科 鈴木重信



右側手前より 安部、富崎、野中、尾身 各外部理事
左側手前より 武藤、片岡、久下、谷、梅津、各役員
平成元年1月28日 南平台会館にて外部理事会

☆同窓会支部

○北陸支部15回目の集まりが、昭和62年11月14日金沢で行われました。支部内の連絡等の後、谷会長から同窓会本部および訓大の現状報告を行いました。親睦会では約30人の参加者と共に交流、親睦を深めたとの報告がありました。

○千葉支部の集まりが昭和63年2月6日海外職業訓練協会で行われました。清水元学生部長、村瀬学生部長、谷会長を含め約40名の参加者がありました。

また、今年の2月18日にも海外職業訓練協会において予定されています。テニス、同窓会の活動や現状の報告、懇親会が計画されています。村瀬学生部長、久下副会長を含め50名ほどの参加者が予定されています。